



『オリンピックのその先へ』

山形県

大泉剣道スポーツ少年団

中学2年生 佐藤 崇人

小学1年生で剣道という“武士道”に出会いました。所作や礼儀を重んじて相手の意思をも打ち砕く、その中に秘められた相手への思いやりと感謝の気持ち。

私には、大好きな武士道で良い成績を残したいと毎日頑張ってきたビッシリ数字の並ぶ素振り帳があります。中学になると、

「オリンピックに剣道はない。」

そんな言い訳と逃げ道にあざ笑うかのような結果がついてきました。道場の先生は「別になくてもいいじゃないか。」とにこやかにおっしゃいます。自分自身をはがゆいくせに、兄と違って背が低いし力もないし…。結局、次から次へと自分を正当化する私に先生は、

「人はみな平等。剣道の神様は、乗り越えられない試練など最初から与えない。」とおっしゃいました。

「目が覚めました。」

見せかけだけの稽古、小さな声、そしていい加減な竹刀と防具のとり扱い。その全てが“落ち武者”生活への一步となっていた事に気が付きました。

私は、稽古をしている時はいつも勝ちたい気持ちで一杯になります。でも、試合で勝つための稽古は正直好きではありません。本当の「勝つ」という意味について、真剣に考えてみても答えは出ません。

そんな時は、錬成会館で行われた合宿で太田範士より教えていただいた、

「試合は、剣道の中のほんの一部です。」

という言葉必ず思い出するようにしています。試合で勝った時こそ、浮つく気持ちをぐっと押さえて心に強く言い聞かせるようにしている大変な難いお言葉です。日々の生活態度、勉強やあいさつなど大切な事はたくさんあり、それらを普通に出来る事こそが強さの一つなのかなとも思います。

私の住んでいる大泉は、剣道に伝統がある地域です。来年は63回を数える大会があります。そこに所属している道場の先生方は、試合で負けた僕たちを叱らずにむしろ褒めたたえて下さいました。父兄には自分の指導力不足だったと謝罪を口にする姿を幼い頃から驚きを持って見てきました。そんな時、今度は絶対に負けないようにしよう稽古に励み、皆で力を合わせて頑張ってきました。指導力が足りなかったとお話する先生方に、応援団である父兄は「よろしくお願いします。」と笑顔で答えていました。まさしく、この姿こそが武士道であり侍だと強く思う瞬間でもありました。いじめや体罰が毎日のように取りざたされている今日、私たちに真剣に向かい合う信頼の出来る先生方や父兄が近くにいる地域に生まれて本当に良かったと思います。

何よりも基本が大切と正しい構えや着装、崩れない姿勢と強い気持ちを心がけて稽古に励むことが出来ました。同年生よりも背が低い私にそんなこと気にするな。むしろチャンスだと思えと日本剣道形を徹底して教えて下さる先生方がいるおかげでどんな相手にも面を斬りにいく勇気が生まれました。

「心を打つ」

今もこれからも、私の目指す武士道です。

剣道は相手の心を読む事で、人の痛みや苦しみを共感し、優しく、強く、広い心を持つことができ

る。そう信じながら鍛練し、自分の逃げたい気持ちに少しブレーキをかけた今年の夏、昇段する事が出来ました。

「オリンピックに剣道がなくても良いじゃないか。」

今は、そう思いながら7年後に開催を迎える日本という国に誇りと期待をしています。

「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。」

これからも長く剣道を続けていきます。